相互添削を取り入れた作文授業の設計と実践

北村雅則（名古屋学院大）　山口昌也（国立国語研究所）

概要

- 初年次教育における日本語表現（文章表現）の実践例
- 作文支援システムを利用した相互添削の実践の紹介
- 今後の課題

発端

文章表現教育の問題点

1. 文章表現に関する学習者の状況把握
2. 学習者が受身にならない授業の内容（活動）の模索
3. 文章作成に関する効果的な指導法の確立

解決の糸口

1. 作文支援システムの有効活用（アンケート集計・モニタリングなど）
2. 取り組みやすく，文章作成の基本を学べる課題の設定
3. 自分の作文を相対的に観察できる相互添削の実現

実践内容

実践環境

•対象：大学1年生（1クラス20～30名程度×3）

（※1クラスは相互添削を行う十分な時間が取れなかった）

•課題1：オランダ国旗とコロンビア国旗を説明する

1コマ目：事前アンケート後，初発の作文（オランダ国旗）

2コマ目：システムチェック，全体フィードバック後，コロンビア国旗の作文

•課題2：似たデザインの国旗の類似点と相違点を説明する

1コマ目：文章構成・必須記述項目の説明後，作文

2コマ目：相互添削，事後アンケート

相互添削の方法

〈添削者〉

1. 修正すべきと思う箇所をマークアップ
2. 添削種目を選択，添削の自信の度合いを，2段階の評価値で評価
3. 適宜，コメントの挿入

〈被添削者〉

1. 添削を確認
2. 添削に対する納得の度合いを3段階で評価
3. 適宜，修正

実践結果

事前アンケートの抜粋

(1)大学で課されるレポートをどのように書けばよいか？

よく分かる：1　ある程度分かる：29　**よく分からない：48**

(2)大学で課されるレポートをどのように書いているか？

内容も文章も自分でよく考えて書く：14

内容も文章も自分で考えるが，深く考えず書く：38

書籍等を参考にするが，自分の言葉でまとめ直す：23

書籍等を参考にするがなどを見て，そのまま写す：3

(3)レポートの出来に対する自己評価は？

出来が良いと思って提出することが多い：4

出来はまずまずだと思って提出することが多い：38

出来に自信がないまま提出することが多い：35

■添削数と妥当性

添削数（対象作文数＝47）

	誤字・脱字	口語表現	語彙・接続	説明不足	冗長	その他	合計
教師	37	39	66	52	39	8	241
学習者	41	31	32	37	11	12	164

指摘の妥当性（教師による事後調査）

	誤字・脱字	口語表現	語彙・接続	説明不足	冗長	その他	合計
妥当	32	22	28	30	8	10	130
不適切	5	3	2	1	0	1	12
非効果的	4	6	2	5	3	1	21

■指摘内容と修正内容の関連性

《妥当》

	誤字・脱字	口語表現	語彙・接続	説明不足	冗長	その他	合計
修正良	20	11	15	10	3	5	64
改悪	0	2	1	1	1	0	5
不十分	4	3	3	7	1	0	18
不要	0	2	0	0	0	0	2
要修正	8	4	9	12	3	5	41

《不適切》

	誤字・脱字	口語表現	語彙・接続	説明不足	冗長	その他	合計
修正良	1	1	1	0	0	0	3
改悪	1	0	0	0	0	0	1
不十分	0	0	0	0	0	0	0
不要	0	1	0	1	0	1	3
要修正	3	1	1	0	0	0	5

《非効果的》

	誤字・脱字	口語表現	語彙・接続	説明不足	冗長	その他	合計
修正良	0	0	0	2	1	0	3
改悪	2	3	1	0	0	0	6
不十分	0	0	0	0	0	0	0
不要	2	3	1	2	2	1	11
要修正	0	0	0	1	0	0	1

【修正良】修正内容がよい。【改悪】修正により内容が悪化した。【修正不十分】指摘されたことを十分直せていない。
【修正不要】指摘が不適切であり，直すべきところがない。【要修正】指摘された箇所が手つかず（未修正）である。

■データから得られる帰結

◆添削数と妥当性

- 適／不適が明確なもの（誤字・口語）の指摘は量，質ともに概ね良好
- 内容面に関わる指摘数は少なめであるが，妥当な指摘が多い

◆指摘内容と修正内容の関連性

- 指摘の妥当性と修正内容の良さは関連する
- 指摘が妥当であれば，良い方向に修正される
  - →気づくことができれば直せる言語直観・内省レベルで修正可
  - →「気づき」を促す工夫（例：システムによるアラート，事前教育等）の拡充
- 指摘が不適切であれば間違った方向に導かれる傾向がある
  - →知識の不足誤りに関わる要因と修正法の指導
  - →悪文添削演習や実例に則した教育やフィードバックの強化

■事後アンケートの抜粋

(1)相互添削に役に立ったか（添削者の立場で）
役に立った：30　**ある程度役に立った：31**　役に立たなかった：9

(2)相互添削に役に立ったか（被添削者の立場で）
役に立った：34　**ある程度役に立った：26**　役に立たなかった：10

(3)クラスメートからコメントをもらうことははげみになる
はげみになる：17　**ある程度はげみになる：44**　はげみにならない：9

■相互添削の可能性

- 学習者同士の相互添削により受身の学習にならず，教師からの知識の教授にはない教育効果を生む可能性がある（例：学習意欲の向上，教え合いによる「気づき」の促進等）

■ 今後の課題

- 学習者に対して，誤りに対する「気づき」を促すような支援機能の拡充
  - →口語表現，漢字・表記については機械チェックの精度向上が有効
- 相互添削方法の見直しと精錬
  - （例：修正漏れを無くす，誤りの指摘だけではなく「褒める」ことの導入など）